

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針  
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に「※」が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	39 政治学専攻	責任者	中根 一貴
基準5	学生の受け入れ	自己評価	B
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
≪回答≫ 前回の認証評価で指摘された定員管理について、収容定員充足率が抵触していたため指摘されていた。まだ改善されていないが、改善のための施策は行われているためにB評価とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針> (記入してください。) 法学研究科政治学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。  1. (1) 政治学を学ぶのに十分な基礎学力と政治問題・社会問題への強い関心を有している。 2. (1) 世界の多様な政治や制度・政策・思想・文化の歴史や仕組みに対する実践的な判断力と柔軟な思考力を有し、政治や社会の諸問題の中から、主体的に課題を発見して自立的かつ計画的に研究する意欲を有している。 3. (1) 国際交流や地域社会活動等に自発的に参加し、社会の様々な分野で活躍し貢献する意思を有している。 技能 4. (1) 政治学や関連諸科学の基礎理論と最新知識を、学界のみならず、実社会での専門実務に応用することを目指している。  法学研究科政治学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。  1. (1) 高度に専門的な政治学を学ぶのに十分な学力と政治・社会への幅広くかつ鋭敏な問題意識を有している。 2. (1) ①世界の多様な政治制度・政策や、その背景をなす歴史・思想・文化に対する高度な知識と斬新な感性、②新たな研究分野を創造する意欲を有し、③政治や社会の諸問題の中から、主体的に課題を発見して自立的かつ計画的に研究する意欲を有している。 3. (1) 国際交流や地域社会活動等に自発的に参加し、社会の様々な分野で活躍し、貢献する意思を有している。 4. (1) 研究者など高度に専門的な職業に従事するために、政治学および関連諸科学の基礎理論と最新知識の修得を目指している。	変更	有 ( ) 無 (○)	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4 * 大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。根拠資料→A3-11 * 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4 * 大東文化大学入学者選抜試験規程		
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。			
≪回答≫ 2022年度法学研究科委員会で審議のうえで担当者を決定しているように、入学試験の採点を出題者以外に必ず2人の教員が行っている。また、特に前期課程における面接試験は、筆記試験合格者のみ行うことで、厳正な入学試験を実施している。		≪資料名≫ 39-C5-1：2022年度第3回法学研究科委員会議事録（開催日：2022年6月15日）、会議資料（入試委員）、2023年度大学院入学試験要項	
★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）			

<p>＜回答＞該当なし。</p>	
<p>評価の視点5</p>	<p>入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応） 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程</p>
<p>★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）</p>	
<p>＜回答＞該当なし。</p>	
<p>◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）</p>	
<p>＜回答＞なし。</p>	
<p>点検・評価項目(3)</p>	<p>5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。</p>
<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16</p>
<p>評価の視点2※ 【基礎要件●】</p>	<p>専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50未滿(改善課題)、博士課程 0.33未滿(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16</p>
<p>評価の視点3</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</p>
<p>★項目(3)5-3収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む） 根拠資料を用いて回答してください。</p>	
<p>＜回答＞2019年度より出願者数増加を目的としたカリキュラム改善の検討をアクション・プランとして実施している。2022年度においては、前年度までの学生へのアンケート結果を踏まえて、政治学専攻のカリキュラム改革のあり方と方向性について議論した。さらに、大学院入試改革を行い、出願者によりわかりやすい入試制度の導入と外部試験の活用を実現した。また、毎年度、全学的に開催している進学相談会に参加している。</p>	<p>＜資料名＞ 39-C5-2：2022年度政治学科・政治学専攻FD活動報告書（2022年9月21日開催）、研究科委員会議事録（2022年12月14日、2023年1月18日、3月1日）、進学相談会募集チラシ</p>
<p>点検・評価項目(4)</p>	<p>5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023年度自己点検・評価について</p>
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p>
<p>★項目(4)5-4改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>	
<p>＜回答＞該当なし。</p>	<p>＜資料名＞ 39-C5-3：</p>

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。  
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

<p>長所・特色</p>
--------------

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。  
※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

<p>問題点・課題</p>
---------------

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票 Noor 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2019-5III-1(5-3)	在籍学生比率の改善	本学学部生を対象としたアンケートを実施し、これらの調査結果に依拠した大学院カリキュラムのあり方などに関する改革案の検討がなされた結果、在籍学生比率が改善されている。	本学学生を対象とするアンケート調査を通じた、彼らの教育ニーズを念頭に置いた大学院カリキュラムのあり方などに関する改革状況。	A(100%)：調査結果をもとに大学院カリキュラムのあり方などに関する改革案の検討がなされた結果、在籍学生比率が改善されている。 B(80%)：調査結果をもとに、改革案が検討されている。 C(50%)：アンケート調査が実施・集計・分析されている。	2022 末結果：B 2023：A

						D(20%)：アンケートの質問事項について検討が開始されている。
--	--	--	--	--	--	----------------------------------

**V【内部質保証委員会による点検・評価】**

<p><b>2022年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学生の受け入れについては、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表されている。その学生の受け入れ方針に基づいて学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているとともに、入試委員会等を設置されている。これらの点から、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施に当たられていることは評価できる。</p> <p>入学定員未充足は、修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となり、収容定員未充足は、修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となる。収容定員充足率の点から、自己評価を「B」とされているように、入学定員充足率は、修士課程：2020年度～2022年度に0.00、5年平均値は0.00、博士課程：5年平均は0.00、収容定員充足率は修士課程：2022年度は0.30、博士課程：2022年度は0.25となっており、基準を下回っており、改善課題の対象となる。</p> <p>項目(3) 5-3として「収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合の対応」について、「2019年度より作成しているアクション・プラン（B票）を執行している」とのことで、2021年度においては学生にアンケートを実施し、その中で大学院進学に関する設問を設けており、その結果については専攻協議会で議論されたとのことである。アンケート結果をどのように分析し、大学院進学希望者の獲得に結びつくような取り組みに発展させるかといったことについての検討・実践が期待される。</p>
<p><b>2023年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学生の受け入れについては、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定して公表されている。それに基づいて、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているとともに、入試委員会等が設置されている。これらの点から、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施に当たられていることは評価できる。</p> <p>2023年度の博士課程前期課程の入学志願者数は0、入学定員に対する5年平均比率は0.00、収容定員充足率は0.00、博士課程後期課程の志願者数は0、入学定員に対する5年平均比率は0.00、収容定員充足率は0.00であり、それぞれ改善課題となっている。2019年度以降、出願者数の増加を目的としたカリキュラム改善の検討をアクション・プランとして実施している。2022年度においては、前年度までの学生へのアンケート結果を踏まえて、政治学専攻のカリキュラム改革のあり方と方向性について議論されており、さらに大学院入試改革に着手されている。その結果、出願者によりわかりやすい入試制度の導入と外部試験の活用を実現した。また、毎年度、全学的に開催している進学相談会に参加していることによって、在籍数比率は上昇した。これらの努力は大いに評価できる。だが、志願者増につながっていないのは残念である。</p> <p>2023年度は改善計画の一つに大学院在籍者比率の増加を挙げている。本学学生を対象とするアンケート調査を通じて教育ニーズを念頭に置いた大学院カリキュラムのあり方などに関する改革であり、進学者数を向上させようという改善計画である。</p> <p>その一方で、2022年度に大学院研究科委員長会議から提案された改善案については提案内容について具体性や問題点の指摘があり継続審議となっている。文系大学の大学院の定員未充足はどこの大学でも課題として取り上げられており、より抜本的な大学院改革を検討する必要がある。</p>

**◆評価の基準について**

**※学部、研究科等評価基準**

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p><b>基準5 学生の受け入れ</b></p> <p><b>【大学基準】</b></p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>(解説)</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。</p> <p>大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。</p> <p>大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。</p> <p>大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。</p>
--